

かぐや姫誕生 「竹取物語」

作成…保坂

今は昔、竹取の翁といふ者あり過去終止。野山にまじりて竹

を取り接続助詞へ動作の反復つつ、よろづのことに使ひ過去終止けり。名をば、さ

ぬきの造となむ言ひ係助詞へ強意ける。その竹の中に、もと光

なむ一筋あり係助詞へ強意ける。あやしがりて、寄りて見る

に、筒の中ラ行四段連用 存続終止光りたり。それを見れマ行上二已然 接続助詞へ順接確定条件ば、

三寸ばかり断定連体なる人、いとうつくしくしてワ行上一連用 存続終止みたり。翁言

ふやう、「われ朝ごと夕ごとに見る竹の中におはするにて知

り完了終止ぬ。子になりたまふ当然連体べき人断定連体な推定終止 P80めり。」とて手にう

ち入れて、家へ持ちて力変連用 完了終止来ぬ。妻の嫗にあづけて養はす。

うつくしきこと、かぎりなし。いとク活用 已然をさなけれ接続助詞へ順接確定条件ば、

籠に入れて養はす。

竹取の翁、竹を取るに、この子を見つけて後に竹取るに、

節を隔てて、よごとに、黄金ある竹を見つくることラ行四段連用重なり

完了終止ぬ。かくて、翁、やうやう豊かになり複合動詞ゆく。

ちご

この児、養ふほどに、すすくと大きになりまさる。三

ナリ活用連用

格助詞へ動作の結果

格助詞へ時

月ばかりに、なるほどに、よきほどなる人

格助詞へ動作の結果、ラ行四段連用完了已然接続助詞へ順接確定条件

に、なりぬれ

ば、髪上げなどとかくし

サ変連用

接続助詞へ単純接続

て、髪上げさせ、裳着す。帳の内よりも

使役連用へ連用中止法

もサ変下二終止

ちやう

打消連用

出ださず、いつき養ふ。この児のかたちのきよらなるこ

光り輝く最高の美しさ

存続終止

と世になく、屋の内は暗き所なく光満ちたり。翁、心地

シク活用連用

マ行上一已然接続助詞へ順接確定条件

悪しく苦しき時も、この子を見れば、苦しきこ

マ行四段連用完了終止

ともやみぬ。腹立たしきことも慰みけり。

経済的に裕福な

翁、竹を取ること、久しくなりぬ。勢ひ猛の者

シク活用連用ラ行四段連用完了終止

格助詞へ動作の結果、ラ行四段連用完了連用

に、なりぬれ

過去終止

この子いと大きになりぬれ

ナリ活用連用ラ行四段連用完了已然

接続助詞へ順接確定条件、(原因・理由)

ば、名を、御室戸齋部の秋田を呼びてつ

みむろどいんべ

完了終止

けさす。秋田、なよ竹のかぐや姫とつけつ。このほど、

係助詞へ強意

過去連体

三日、うち上げ遊ぶ。よろづの遊びをぞしける。男

はうけきらはず呼び集へて、いとかしこく遊ぶ。世界の男、

ナリ活用連体

あてなるも、シク活用連体賤しきも、「いかで、このかぐや姫をア行下二連用得

終助詞へ自己の願望

マ行上一連用終助詞へ自己の願望

ね

てしがな、見てしがな。」と、音に聞き、めでて惑ふ。

ラ変連体

副助詞へ類推

そのあたりの垣にも、家の門にも、をる人だに

名詞

ナ行下二連用

へ連用中止法

たはやすく見る

不可能連体

まじきものを、夜は安き寝も

寝

ず

ハ行四段命令

存続終止

闇の世に出でても、穴をくじり、垣間見、惑ひあへり。

赤波線…動詞

橙波線…形容詞

紫波線…形容動詞

緑 杵…助動詞

青二重…助詞

豆知識

成人の儀式…命名

・髪上げ

・裳着